

目的：“ねまき”の色彩嗜好については、本学会第40回・41回・42回大会で研究報告したところであるが、本研究はその延長線上の研究である。生活科学の視点からは、何をもって快適環境と受けとめるかは、文化・風俗・習慣・学習の成果などに影響されると考えられるが、本研究では、色彩環境に焦点をおき、介護者の視点からみた快適環境につき分析することを目的とした。

色彩による刺激は、精神的な安定感、心理的さわやかさ、心のぬくもり、やすらぎなどの心象を生みだすと思考するが、在宅療養者及びその家族にとって、どの色彩がどんな心象を生みだすのかが、本研究の課題である。

方法：①調査期間—1992年7月～1992年9月、郵送法（質問紙法）によって調査を実施。配票数1,850、うち有効票は907であった。②調査対象—特別養護老人ホーム寮母593名、介護福祉専門学校生207名、家政婦107名。③調査項目—対象者属性、快適環境について、色彩イメージ及び要介護老人の情緒的に安定する“ねまき”の色彩などの質問項目を設定。④データ処理—FACOM M-760を使用し、SASにより解析を行った。

結果：①対象者・年齢・性別で、“ねまき”の色彩嗜好性に差があることが明らかになった。②色彩イメージの全体構造が明らかになった。③対象者・年齢・性別の色彩イメージ構造に差がみられた。なお、色彩（青、緑、茶、灰色系統）の言語イメージ（空間）に占める快適性の因子分析結果等については、発表時に資料を配布して報告する。